
とある学生物語。

Excel

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある学生物語。

【Nコード】

N8255F

【作者名】

Excel

【あらすじ】

3人の中学3年生を中心に回っていくコメディーな物語。

第1話・僕とヤンキーと友達と。

「おらあ！まてやあ！！」

なんで最初から叫んでんだって？叫んだのは俺じゃないですよ？

それに・・・この状況を聞いてから言ってください。

場所は廃工場で目の前にはヤンキー5人。

ちなみに僕の味方は俺の隣で震えている同級生ひとりです。

「おう、兄ちゃんどうする？俺らと遊んでくれんのか？」

え？嫌ですよ、あなたたちと遊んだら僕大ケガするじゃないですか。

「なに黙ってたんだ？」

「いやー・・・どうしようかなあ・・・と」

汗ダラッダラの俺がそういうと目の前のヤンキーさんたちがニヤニヤしました。

顔怖いですって・・・泣きますよ？いや、ほんとに。

「そこの姉ちゃん置いてったら兄ちゃんは助けてやるぞ？」

「え、ほんと「置いて」たらあたしがあんたを殺す・・・」

ちょ、どっちにしろ死ぬじゃん!?

どーするよ・・・ん?逃げろって?

僕ら部屋の隅っこに追いやられてるんですけど。

しかも出口は俺らと真逆の方向にありますよ。

じゃあ倒せ?バカ言わないでください。

平凡なこの俺がどうやってヤンキー5人を・・・。

そういえば荷物は?なんか金目の物持ってない?

えっと・・・腕時計、制服、靴、カバン。

カバンの中は教科書、国語辞典、筆箱・・・。

あ、辞典で戦うとか?

・・・ヤンキーのお兄さんは鉄パイプ持ってますよ。

殴ろうとしたらこっちは殺られますよ・・・。

こいつは?俺の隣の同級生は?

制服、靴、カバン、白い箱。

・・・白い箱?

（ねえねえ）

（な、なによ？）

（その白い箱って何はいつてんの？）

（え、調理道具だけど？）

ピーーン！俺の脳に指令が来たよ。

あ、間違えないでね死令じゃないよ。

（ちょ、その箱貸して！）

（え？なんで？）

説明するのが面倒くさいので勝手に奪い取った。

ヤンキーさん、僕はこの箱であなたたちから逃げ切って見せますよ！

「何してんだ兄ちゃん？」

「い、いえ別に・・・」

ガン見してくるヤンキーさんたちを無視して箱を開ける。

えっと、包丁3丁、オタマ2つ、フライパンに鍋と様々です。

これだけあれば逃げられるよ！ありがとう調理部！

（逃げるぞ）

（え？どうやって？）

（いいから、俺が行動起こしたらすぐに逃げなさい）

「兄ちゃんさっきから何コソコソしてんだ？」

「あ、すいませんもうコソコソしません・・・」

そういった俺は包丁1丁を手に取り・・・投げる！！

その瞬間に同級生はヤンキー軍団に向かってダッシュ！！

「おわっ！？」

当たるの思ったのか鉄パイプヤンキー（以下A）は仰け反ったが大丈夫です当りません、狙ってないですから。

「あ、までこのヤロオ！！！」

金髪ヤンキーさん行動早いですよ。

でもその行動は読んでました！

ヤンキーが同級生を掴むより先に俺はフライパン片手に飛び出しました！

掴もうとしている金髪ヤンキー（以下B）をフライパンでぶっ叩く！

Bはその場に倒れこみ動かない、たぶん気絶した。

「一郎！」

ロン毛ヤンキー（以下C）はBに駆け寄った。

俺は1度退散してまた包丁を投げる！

投げた方向は出口に1番近かったピアスヤンキー（以下D）。

DもAと同じように仰け反り、その場にへたり込む。

そしてへたり込んだ瞬間、同級生はDの顔面に蹴りを放つ！

クリティカルヒット！Dに120のダメージ！

Dは口から血を吐きその場に倒れた！大丈夫か！？

「何しやがるこのガキィ！！」

なんかボスっぽい人がこっちにきた！

鎖！鎖を手にとってる！危ないって！

喰らえ！コシヨウ瓶ボム！

投げたコシヨウ瓶は一直線にボスの元へと飛んでゆく！

「つしゃあヒットお!!」

て思ったら鎖で叩き落したあ!!

割れちゃったよ!あとで弁償しないと!

「ヘックシヨイ!」

やったね!立ち止まったよ!しかもすぐそこで!

「喰らえ!必殺!フライパンアタック!」

あ、叫んじやった。

フライパンはコシヨウ瓶のように一直線にボスに向かっていく!

「ぐぽっ」

当たったあ!!!デコにヒット!ボスは倒れた!

フライパンはクルクル回転しながらBとCのほうへ。

あとはAとCだけd「放して!」

あ、同級生がAに捕まった!

物投げたら同級生に当たるかもしれないし、叩こうにもフライパン投げちゃったし!

「捕まえも「放せえええ！」ボペっ」

ナイスだよ！ナイスパンチ！

そして早く逃げて！出口まであと3歩でしょうが！

「一郎の仇いいいい！！！」

C待って！！それで俺殴ったら俺たぶん死んじゃうって！

そんな俺の願いも届かずCは俺の投げたフライパンを手に取りこっちに走った。

途端、Cが倒れたボスにつまづき転んだ！

フライパンはCの手から離れ、宙を舞う！

クルクル回転しながら落ちたところはCの後頭部、Cさんご臨終です。

残るはAだけ！

あれ、同級生どこ行った？あ、出口から脱出したのね。

Aは・・・フラフラしてる！パンチが効いたんだね！

あ、だめ！こっち見ないで！

「このやろおおおおお！！！！！」

「ぎゃああああ!!!!」

鉄パイプを振り上げたAはこっちに走ってくる!!!!

あ、フライパン。

俺はCにとどめを刺したフライパンが手元にあるのに気づき手に取る。

そして叫んだ!

「だりゃあああ!フライパンアタツキイ!」

噛んじやった。

じゃなくてフライパンを投げる!!

なげたフライパンはAの喉元にヒット!!

「へげっ!!!??」

奇妙な奇声を上げながらAはボスのように倒れた!

Aが倒れてしーんとするなか俺は気づいた。

中学3年生はヤンキーを倒した!

てててーてーてー♪(勝利のファンファーレ)

経験値8000を獲得した!

ふう・・・テンションが上がってしまった。

「起きたら困るな・・・」

そう思い、ヤンキー5人組を部屋の中央に引きずって集める。

どうしたものか・・・ってそういえばボス鎖持ってなかったか？

ボスの持ってた鎖を見つけた俺は素早く手に取りヤンキー5人組をグルグル巻きにする。

最後に部屋の隅で偶然見つけた針金で鎖をうまく止める。

縛ってもほどけそうだからね、鎖だし。

「つかれっちょ」

また噛んだ。

じゃなくて、投げたもの片づけないと。

俺は投げた包丁などを調理箱に戻す。

よし、帰ろう。

俺が荷物を持って出口に手をかけたときピーンと来た。

「鍵穴がある」

内側に鍵穴があるなんて珍しいと思って、ドアをよく見ると外側にも鍵穴が。

ほう、この部屋にあるのは換気扇だけだな？

そう思って部屋に戻り換気扇を回し、ほったらかしにしてた針金を手に取り部屋を出た。

そしてドアの外側にあった鍵穴に針金を突っ込む。

なにやってるかって？ 鍵閉めてるんだよん。

なんてったって俺は女子更衣室のカギを開けた男・・・嘘だから引かないで！

鍵屋のおっちゃんに習ったんだよ、おもしろそうだったから。

ガチャッ

うん、すっきりする音だ。

針金を刺したまま俺は廃工場を後にした。

P S、名前いうの忘れてた。

第1話・僕とヤンキーと友達と。(後書き)

文才のない若輩者の小説ですがよろしくお願いします。

第2話・僕と友達と廃工場

いま俺がいる場所は学校の校門あたり。

さつき倒したヤンキーを放置しておく訳にもいかなかったので友達の見聞を聞きにきた。

で、学校に入ろうとドアに手を触れたら中から声が聞こえた。

「待てろよ陸うううううううううう！！！！」

この声は龍也だな？　ってドアがガラスだから校内丸見えだし。

あ、龍也っていうのは俺の親友で剣道部の部長。

本名は伊藤 龍也 いとう りゅうや

ちなみに龍也が叫んだ名前は俺の名前、本名は原本はらもと陸。りく

「おい龍也くこつちこつちく」

ドア越しに俺が龍也の名前を呼ぶと龍也はこっちに向かって走ってきて

バン！！！！

勢いよくドアを開けて俺を吹っ飛ばした。

で、でこが割れるうう……。あ、血……。○

「陸！無事か！」

「お前のせいで無事じゃなくなった・・・」

あ、龍也の後ろに同級生が。

「あ、お元気？」

とりあえず確認→

「その額ひたいどうしたの！？殴られたとか！？」

いや、俺の目の前にいるこいつのせいです。

そういえば1話目から同級生同級生って言ってた同級生の名前は
さなだ めぐみ
真田 恵。

調理部らしい、コシヨウ弁償しなきゃ・・・。

「全然大丈夫、デコの傷は龍也のせい」

「え！？俺？」

なんで気づかねんだよ、ガラス越こしに転ぶ俺が見えたはずでしょうが！

「と、とにかく相談したいことがあるんだけど」

「「へ？」」

この後、俺は二人にカクカクシカジカを説明して廃工場まで来てもらった。

「で、ここに閉じ込めてるわけです」

「じゃあ、二度と悪さしないように脅すとか」

たかが中学3年の俺らが脅おどしたところでどれほどの効果があるのか。

「まあ入ろうぜ」

そう言って俺はカギ穴に差し込んであつた針金を回す。

ボキン！

んゝいい音・・・？

俺が手元を見ると針金が折れている。

「折れちゃった」

「「え？」」

ちよつとちよつと、二人とも顔が青くなってる！

「え、ちょ、ホントに？」

「うん、折れちゃった」

「どうやって開けるのよ」

「ドアノブをガチャガチャやってみるとか」

そういった龍也がドアノブを回した。

バキン

んゝいい・・・バキン？

あ、龍也の手にドアノブがある。

なんでドアにドアノブが付いてないんだ？

「なにしてんの龍也！ほんとに開けられないじゃない！！」

「え、だって軽く回しただけだぜ！？」

お前どんだけの馬鹿力だよ。

．
．
．
どうやって開けましょう・・・こういうドアによくとる行動は．
．

「龍也ー、せーので体当たりな」

「開くと思う？」

「マンガとかアニメで成功してるし、どうにかなるんじゃない？」

「まあやってみるか」

「せゝえの！！！」

バァン！！！！

うおお！開いたあ！

「ギプっ」

あれ？ヤンキーさんがいないぜ？

「下下下下！！！！」

あ、踏^ふんずけてたドアの下か。って、よくここまで移動したな。

「あ、すいません」

龍也がドアの上からよけたので俺もよける。

「「さっきはすいませんでした、お願いですから解^{ほど}いてください・
・・」」

五人中三人がこっちを向いて頭を下げた。残り二人はいまだに気絶中。

「解^{ほど}いてもいいけどもう悪さしないって約束しますか？」

「しません！二度としません！」

ちよつと恵！勝手に約束したらダメだって！

あ、でもこの三人いまにも泣きそう。

「しょうがねーなあ」

龍也が針金を外すと同時に鎖がゆるみヤクザ達が解放される。

ヤンキー達は自由になったとたんこう叫んだ。

「ありがとう！ありがとう！少年！」

そう言いながら拳を振り上げて殴りかかろうとしたが、龍也が竹刀でヤクザの腕を殴った。

バチン！！

うっわー痛そう・・・。

「こらこら、どさくさにまぎれて抱きついちゃダメだって」

おいコラ、お前の頭はどうなってんだ。今のは絶対抱きつこうとしたんじゃないって。

って恵もそこであなずくなよ！

「「す、すいませんでしたあ」「」」

そういうとヤンキーたちは怯えた顔でどこかへ行ってしまった。

あらら・・・残った二人どうすんだ？

「陸、この二人どうする？」

「そのうち起きるんじゃない？」

「んじゃ放置ということで、解散します？」

「早く部活に戻らねーと・・・んじゃ！明日なー！」

そういうと、龍也は部活へ戻った。

さて、俺も帰るかー。

「じゃ、ばいならー」

ガシッ！

首！首しまってる！襟元^{えりもとつか}掴むなああああ！！！！

「私を置いてくつもり？」

「あ”いそうでず」

「普通送っていくでしょ」

「なんで？早く帰って世界を救わないと・・・」

「それゲームの話でしょ？ちゃんと送ってよね」

「えー、だってめんどくさ「文句ある？」ないです」

怖え・・・。

このあと俺は恵を家まで送り届けてから家に帰った。

ちなみに帰る途中でコショウ瓶を買わされた。

所持金が・・・これじゃ電車にも乗れません・・・。

P S、この事件の後、ヤンキーたちが起こす悪事が減ったそうだ。

第2話・僕と友達と廃工場（後書き）

第2話です。ルビを付けてみました。

不安定な更新具合になるであろう僕をお許しください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8255f/>

とある学生物語。

2010年12月24日02時24分発行